

里山の家 地域連携推進会議報告

会議情報

- 日時：2025-08-08 10:30～11:15
- 場所：里山の家 食堂
- 出席者：N様（家人）、S様（福祉に知見のある人）
K様（経営に知見のある人）、T様（西尾市役所障害福祉課）
I（里山の家管理者）、O（里山の家職員）
- 欠席者：K様（利用者）※体調不良の為
N様（地域の関係者）※やむ得えない理由の為

議事録

1. 里山を家のサービス内容と地域連携についての紹介

- 地域連携推進会議の目的**
事業所のサービスの質向上を目指し、現状共有や意見交換を通じて利用者への良い影響をもたらすことを目的とする。地域との関係づくり、理解促進、透明性・質の確保、利用者の権利擁護といった要素を意識する。
- 里山を家の理念と基本方針**
理念は「豊かな暮らしの実現」。そのために、1.質の高い生活と日中活動の提供、2.集団生活の中での個別ニーズの尊重、3.自己実現のための選択機会の提供、4.職員の専門性向上、という4つの柱を掲げている。
- 里山を家のサービス概要**
定員50名（男性40名、女性10名）に対し、夜間や休日の「入所支援」、日中の活動を支える「生活介護」を提供。他に、家族の負担軽減や

緊急時利用、将来のための練習を目的とした定員 5 名の「短期入所」および「日中一時支援」サービスも実施している。

- **里山の家の強み**

入所支援では、1 ユニット 10 名の個室中心の「ユニットケア式」で家庭的な環境を提供。生活介護では、「風の谷」（軽作業中心）、「個別 C」（活動的プログラム中心）、「個別 B」（ゆったりした時間）の 3 部署で、利用者の特性に応じた支援を行っている。

- **余暇支援とその他の活動**

毎月 1 回の季節行事（8 月は夏祭りを予定）、お菓子の購入、週 1 回のバスドライブ、月 1 回のバルーンアート披露、年 1 回の日帰り旅行などを実施し、生活に楽しみを提供している。

- **地域との交流活動**

施設見学の受け入れ（最近では更生保護女性会、去年は民生委員会）、駐車場の提供（昨日も山の清掃活動団体が予約）、毎月 10 日の交通安全活動、地域と協力した草刈りなどを通じて、地域に開かれた施設を目指している。

- **苦情・意見への対応状況**

最近の事例として、豪雨で崩れた畑の石垣への応急処置に関する地域住民からの指摘、2025 年 4 月頃に発生した短期入所サービスの予約不備、職員の対応に関する意見があった。予約不備等については、管理者主導で再発防止策を講じた。

結論

1. 短期入所の予約不備と職員の対応については、管理者主導で再発防止策を講じ済み。石垣の排水先の U 字溝に関する指摘については、現在対応を検討中。

2. 里山の家の運営状況と今後の取り組みについて

- **日常生活の様子と個別支援**

平日と休日のスケジュールを設け、ドライブやレクリエーションで変化をつけている。支援は個々の利用者に合わせた個別支援計画に基づいてお

り、職員が変わっても同じアプローチができるよう詳細な手順書を作成。支援の質を保つため、月1回の担当者会議で計画を見直している。

- **BCP（事業継続計画）について**

自然災害や感染症蔓延などの緊急事態に備え、業務継続計画を策定。6月と7月に予備電力の試運転訓練を実施。ガス軽油で動く予備電源があり、停電時も主要フロアのエアコンを稼働させ、利用者の安全を確保できる。備蓄食も用意。西尾市の福祉避難所としての役割も担う。

- **経営状況について**

現在、施設の運営は安定しており、サービスの提供に支障はない。3年に1度程度の報酬改定に対応し、去年も体制整備を行って加算を取得。これが安定運営と利用者支援の質維持に繋がっている。

- **虐待防止の取り組み**

権利擁護委員会を設置。利用者への呼び方を「さん」に統一し、尊厳を守る取り組みを実施。職員が作成したイラストを用いて、清潔感のある身だしなみについて意識向上を図る。食事や服薬方法も、個々の特性に合わせた理由ある支援を徹底し、安易な方法に流れないように定期的に呼びかけている。

- **利用者満足度調査**

定期的な余暇支援後に職員間で手応えを話し合い、振り返りを実施。食事面では、2025年5月から7月にかけてリクエスト給食（カレー、肉うどん、ケーキ、まぜそば、ハンバーガー）を提供。毎月、厨房会議で委託業者（日清医療食品）に利用者の意見を伝えている。4-6月の残食調査では、50名中98%以上が完食。

結論

1. 職員間のシフト変動に対応し、支援の質を一定に保つための手順書と定期的な会議が機能している。
2. 災害時の電力確保や避難体制、食料備蓄など具体的な対策が計画・訓練されており、市の福祉避難所としての機能も準備されている。
3. 報酬改定へ迅速に対応し加算を取得したことで、経営は安定している。
4. 呼称の統一、身だしなみへの配慮、個別性を重視した食事・服薬支援を通じて、利用者の尊厳を守る体制を構築している。

5. リクエスト給食や厨房会議を通じて食事満足度の向上に努めており、残食率の低さから高い満足度が伺える。

3. 事業所運営に関する報告と質疑応答

- **食事の満足度について**

ほとんどの利用者が完食しており、食事への満足度は高いと推測される。一部の偏食の利用者は個人で好きなものを別途用意している。喫食状況は、去年から導入したキントーンのアプリで「1割未満」から1割ごとに細かく記録しており、日々の記録の精度を上げることで、より正確な満足度を把握するよう努めている。

- **利用者の意見発信の機会について**

利用者からの意見を吸い上げる正式な会議の場は設けていないが、フロアリーダーなどの職員が定期的に利用者から意見を聴取するよう促されている。特に、言語的コミュニケーションが難しい利用者については、日々の食事の様子や記録などから意向を汲み取っている。これらの情報は、サイボウズというアプリで、職員間で共有・集約されている。

- **短期入所の予約システムについて**

短期入所の予約は現在、電話で受け付けている。電話を受けた際にその場でPC上の予約表で空き状況を確認し、予約を完了させている。予約後に文書を送付するなどの対応はしていない。この方法だと記録が残りにくいいため、現在はデータで記録が残る新しい予約システムを開発中である。

- **利用者の身体的負担に関する指摘**

会議の参加者から、ソファに座っている男性利用者の姿勢が腰に負担をかけているのではないかと指摘があった。職員は、感染対策のために一時的に普段と違う場所で過ごしてもらっていたと説明し、外部の視点からの気づきの重要性を認識した。

4. 所感・気づきの提出

- ・ 日中の活動や作業部屋などを見学することができて有意義だった。施設内はアットホームな雰囲気が良かった。

- ・短期入所の電話予約は回線が混みあうなど、対応が大変ではないか気になった。
- ・今年の4月に福祉課に配属され、今回が初めての障害者支援施設の見学だったため、さまざまなことが目新しくとても参考になった。特に、利用者の方のそれぞれに適した自立課題の作成をしていることや、バルーンアート等のイベントについては利用者の方にとっても大変良い活動に感じた。
- ・利用者の方の支援の根幹である個別支援計画に基づいた手順書の進捗や、見直しのために担当者会議を毎月実施しており、常にバージョンアップを目指している姿勢が素晴らしいと感じた。